WHO神戸センター
第37回日本国際保健医療学会学術大会
共同企画（一般公開）

WKCフォーラム

急速な高齢化に対する医療システムの対応：東南アジアと我が国の教訓

世界保健機関健康開発総合研究センター（WHO神戸センター・WKC）では、急速な高齢化に対する各国の医療システムの対応をテーマとした特集をBMC Health Research Policy and Systemsに近く発表の予定です。国・地域レベルの教訓を広く適用すべく、掲載論文より日本および東南アジア5か国における研究成果を共有します。

【参加費】
無　料
一般参加の方は
事前申し込みが必要です。
締め切り
11月18日(金) 正午まで

学会学術大会に登録された方は申し込み不要。
学術大会ホームページから視聴できます。

プログラム

12:00 開　会

プレゼンテーション：10分×6講演

パネルディスカッション：20分

13:20 閉　会

2022.11/19(土)

Zoom開催
12:00 ～ 13:20

＜事前申し込み方法＞
下記URLまたは
QRコードより
お申込みください

https://forms.gle/ia2wdsdj71aPbFiJ9

World Health Organization
Centre for Health Development

第37回日本国際保健医療学会学術大会

共同座長

WHO神戸センター
ローゼンバーグ 恵美

国際基督教大学学士、カリフォルニア大学ロサンゼルス校公衆衛生大学院修士、同博士。2006〜09年、同大学院の南カリフォルニア外傷予防研究センター主任研究員として災害疫学の研究に取り組む。2009年からWHO神戸センターの技官として国際保健分野の研究活動に従事。現在は人口高齢化を見据えたユニバーサル・ヘルス・カバレッジの促進とその進捗評価のための指標と測定に関する研究分野を担当。Bulletin of the World Health Organizationの編集顧問も務める。

WHO神戸センター
冨岡　慎一

九州大学医学部卒業後、武蔵野赤十字病院、都立墨東病院で勤務した後、松下政経塾にて高齢社会における医療介護の在り方をテーマに研究。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスおよびロンドン衛生熱帯医学大学院で医療政策と社会政策のダブルマスターを取得。その後、産業医科大学で医学博士を取得。ハーバード公衆衛生大学院研究員、産業医科大学医学部公衆衛生学助教、広島大学公衆衛生学助教の職を経て、現在は内科医として在宅医療に携わる傍ら、2021年より、WHO神戸センター非常勤コンサルタントを務める。

プレゼンテーション

フィリピンの高齢者ケアに従事する医療福祉ワーカーを対象とした多職種連携強化のための研修プログラム開発

高齢者ケアシステムの構築途上にあるフィリピンにおいて、高齢者のニーズを包括的に評価し医療と生活支援を連続的に提供するために、多職種の人材とその連携が必要です。現職者のための短期研修プログラムを開発しました。

東京医科歯科大学
国際保健医療事業開発学分野
中村　桂子

東京医科歯科大学大学院国際保健医療事業開発学分野教授。WHO健康都市・都市政策研究協力センター所長。研究テーマは、都市環境と健康、ヘルスプロモーション、健康決定要因、プラネタリーヘルス、アジアの高齢者医療福祉システム、健康危機管理、地域課題解決策を探る実装科学研究、他。

タイ国チェンマイ市におけるタイ人高齢者の家族を中心とした長期ケアを強化するための地域統合型ケアサービスモデルの有効性の検証：クラスター無作為化比較試験

CIICプロジェクトは、タイ国のコンテキストに沿った新しい長期ケアモデルの有効性を検証したクラスターRCT研究です。本モデルは、家族介護者の負担を軽減し、高齢者の機能的な能力を維持することを示唆しています。今後、多くのアジア諸国で導入される事が期待されています。

東京有明医療大学保健医療学部
順天堂大学医学部医学研究科
小柳　祐華

順天堂大学医学部医学研究科修士課程（医科学）、同博士課程（医学）修了。東京有明医療大学保健医療学部講師・順天堂大学医学部グローバルヘルスリサーチ講座非常勤助教。東京有明医療大学にて「TAU健康体操教室」を主宰。CIICプロジェクト・Digitally inclusive, healthy ageing communities（DIHAC）研究に従事。研究テーマはヘルシーエイジング、介護予防、ソーシャルキャピタル、グローバルヘルス。

マレーシア国セランゴール州の高齢者における高血圧治療のアンメットニーズ、横断研究

マレーシア国で最も人口が多いセランゴール州の高齢者1204名を対象とした横断調査において637人（53%）に高血圧があり、そのうち84%に何らかのアンメットニーズがあり、血圧をコントロールできていたのはわずか100人（16%）でした。

新潟大学大学院医歯学総合研究科
十日町いきいきエイジング講座
菖蒲川　由郷

新潟大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了。ロマリンダ大学公衆衛生学院ポスドクフェロー。2011年、新潟大学大学院医歯学総合研究科国際保健学分野助教。2014年、同国際保健学分野准教授。2019年より新潟大学大学院医歯学総合研究科十日町いきいきエイジング講座特任教授。

ミャンマーの高齢者における高血圧診断のアンメットニーズ

ミャンマーの都市部と農村部の高齢者で、高血圧なのにも関わらず、診断されたことがない（アンメットニーズ）のはどのような人たちなのか、2018年に実施した調査の結果についてご報告します。

国立国際医療研究センター
国際医療協力局
野崎　威功真

同志社大学工学部卒業後、医師を志し、信州大学医学部に入学、卒業（2000年）。国立国際医療研究センター小児科で臨床経験を積んだのち、同国際医療協力局に入局。長期海外派遣では、ザンビアに3年間、ミャンマーに5年間、JICAの保健専門家として活動。この間、医学博士を取得し、ハーバード公衆衛生大学院への留学、厚生労働省国際課出向も経験。2020年より、保健政策アドバイザー（JICA）としてカンボジアに長期赴任中。

改訂長谷川式簡易知能評価スケールを用いた60歳以上のラオス住民における認知機能

アジアの途上国でも人口の高齢化は確実に進んでおり、これに対応するためには基礎情報を収集する必要があります。今回は、改訂長谷川式簡易知能評価スケールを用いて測定した地域住民の認知機能の結果を報告します。

医療法人
葵鐘会
浜島　信之

名古屋大学医学部卒業（医師）。名古屋大学大学院博士課程修了（医学博士）。1986年 University of Washington School of Public Health and Community Health 修士課程修了（公衆衛生学修士）。名古屋大学医学系研究科予防医学教授（2002年）、同医療行政学教授（2012年）。2022年より医療法人葵鐘会顧問。

認知症による要介護の社会負担軽減に向けた行政データの活用

未曾有の高齢化に直面するわが国にあって、認知症による要介護の社会負担は増すばかりです。その負担軽減に向け、神戸市の行政データを利用した大規模研究の概要を紹介するとともに、その成果に基づく社会システムの方向性を論じます。

京都大学医学部附属病院
先端医療研究開発機構
永井　洋士

東京大学薬学部卒業。大阪大学医学部卒業。1996年、米国国立衛生研究所（NIH）。1998年、大阪大学医学部大学院病態情報内科。2003年、先端医療振興財団　臨床研究情報センター。2015年、神戸大学医学部附属病院臨床研究推進センター。2021年より京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構教授。